

# 郷土文学資料センター だより

第4号 2004年 11月 5日

## 夭折の俳人・川口重美 ～寄贈の資料に期待～

清永 只夫

(当センター運営協議会委員)

時に私たちは、切ない思いと共に“夭折”という言葉と向かいあうことがあります。郷土の場合で言えば、中原中也や金子みすゞに思いを寄せるときがそうでしょう。

中原やみすゞほど知られてはいませんが、下関出身の俳人・川口重美の場合も、そうした一人であったと言えるのではないのでしょうか。優れた感性を示しながら25歳での死。もしもっと長く生きてたならという、歴史上の禁句「もし」という言葉を持ち出したくなる存在でした。

川口重美は、大正12(1923)年7月21日、海峡の町下関の田中町に生まれ、下関中学校・山口高等学校(共に旧制)を経て東京大学工学部建築学科に進みます。その大学時代、学寮俳句会に参加し、沢木欣一が主宰する『風』誌をはじめ『寒雷』や『万緑』『しぎの』などの俳誌に投句をし、のち『風』の同人となっており、俳号は初期には梶太(きょうた)を用いましたが、のちには本名の重美(しげみ)を用いています。

その彼は、大学卒業後いったん郷里に帰って来るのですが、その昭和24(1949)年の4月15日、山口市において自ら命を絶ってしまったのです。その理由については、大学時代に肺を病んだことがあり、このことが直接の原因であったのか、あるいは文学的に行きづまったのか、さらに他の理由なのか、容易に決めがたいものがあります。

遺句集『川口重美集』によって彼の作風を知ることができますが、その作品は、戦後の混乱期を真摯に生きた精神の苦悩と清冽な詩情をたたえ、その純度の高い詩心から、戦後下関が生んだ最高の俳人と大いに囑望されてただけに、その死が惜まれるのです。

今回、俳人で川口重美の研究家でもあった故上野さち子県立大学名誉教授の夫君・上野五郎先生から、川口重美に関する資料、句集をはじめ創作ノート、書簡、「単騎の会誌・川口重美特集」などの貴重な資料をご寄贈いただいたという。今後の研究や顕彰に大きく貢献するものとなりましょう。

ちなみに、上野さち子先生が彼の代表的な句として紹介されていたのは

渡り鳥ははるかなるとき光りけり

というものでした。光を放っている鳥は川口重美その人のように思えます。



写真：川口重美(左)

# 剣花坊と山口

和田 健

(当センター運営協議会委員)

井上剣花坊（1870-1934）の短冊が附属郷土文学資料センターに21枚ある。内2枚は信子夫人（後妻）の句である。私が寄贈をあっせんしたと記録にある。そういえば、木村家でいつだったか見せてもらった。その以前に私は、元中村高等女学校の校長だった木村貞子さんと、かかりつけの外科医でよく顔を合わせていた。話はそのとき出たものである。

もともと私は剣花坊に関心を持っていた。その長男の麟次氏は詩人で、私が編集していた、『現代山口県詩選』にも郷土とのゆかりで参加してもらっていた。萩にできた最初の句碑の除幕式の時、一緒の車で山口まで帰った。

私の著『防長文学散歩』（初版昭和49年9月刊）には、生誕地“萩の項”と寄留地“山口”に、剣花坊のことを書いている。剣花坊が、まだ川柳に志していないころ、彼は萩を出て山口の糸米小路（現中央3丁目2番14号）に住んでいた。母親と一緒に、この家で先妻との間に長男麟次、次男鳳吉を生んでいる。そのころは剣花坊とはいわず、旬刊「鳳陽新聞」後に改題「長周新聞」の記者として、「防長新聞」の向こうを張って筆陣を敷いていた。まだ20代だった。しかし、妻が死に上京して日本新聞社に入る。明治36（1903）年、34歳の時である。新川柳は同紙を根城に旗上げする。

「故郷忘れ難し」。大正8（1919）年「防長新聞」に「新川柳」の欄が設けられるや、剣花坊は撰者に招かれ、以来しばしば帰郷の機会に恵まれた。県内の柳壇も光・山口・萩と盛んになる。

大正8年9月5日には剣花坊を迎えて中村女学校講堂で川柳大講演会が開かれている。校長・木村菊三郎もファンの一人だったことが想像される。従って短冊も折にふれ書いてもらったことだろう。余談だが、剣花坊は若き日の吉川英治の面倒をみ、英治も一時期川柳を書いていた。

井上剣花坊の短冊



## 寄贈 雑誌 —2003年11月14日～2004年10月15日—

『川柳ほうふ』479号～490号／『萌』309号～319号／『川柳せめんだる』No. 460～470

『其桃』708, 710～718号／『ほうふ図書館だより』No. 174, 184～194号／『火山群』43

『柳井短歌』245～248号／『文芸山口』253～257号／『きらら山口』vol. 1～7, 9, 10

『颯』65, 66／『風郷樹』18, 27, 30／『総合雑誌21世紀』57／『文芸阿東』19号

『鷺流間集（一）』（山口県立大学大学院論集5号別刷）／『中原中也研究』第9号

『川柳瀬戸内』No. 157, 172, 176, 177 (No. 176より『川柳せとうち』に改題)

→3頁下段へ

## 仏縁の『嘉村礒多全集』

多田みちよ

(現代俳句協会会員・「風響樹」同人)

佐野佳津子さんの初盆にお参りした折のこと。お姉さまの千鶴子さんから — 祖父の所蔵していたものですがお役に立てば — と示されたのは函に納まった『嘉村礒多全集』全三巻(昭9・白水社)で、巻末に貼付されたカードには千部限定の内第334部とある。

実は私の手元にもそれほど上等ではないが第218部のカードの付いた全集がある。

ご厚意に感謝し、できれば県立大学附属郷土文学資料センターにお納め頂ければと、お願いしたところ、千鶴子さんは県立大前身の山口女専のご卒業とのことととても喜ばれ、目に見えない絆を思わずにはいられなかった。

亡き佳津子さんは、文学散歩の会に、中原中也の会に、そして嘉村礒多顕彰会の催しにもみえて文学に熱心な方とお見受けしていたが、癌に冒されていらっしやると知ったのは大分後のことである。堀辰雄の愛読者らしくいかにも作品の女性を思わせる方だった。

逝かれたことを知らずにいた私のもとへ、ある日出さず仕舞いとなった最後の葉書が宇部のお宅から届いた。有職雑のその絵はがきをもって初盆のお参りは辛かった。振り返れば佳津子さんとひとときを共にしたのはそれがはじめだったが奇しきご縁を頂いた。

### 寄贈 図書 —2003年11月14日~2004年10月15日—

岡昌子『生誕二百五十周年記念 雲遊の尼田上菊舎』／『一字庵菊舎俳句集』

／『生誕二百五十周年記念田上菊舎顕彰の歩み』

／『生誕二百五十周年記念菊舎顕彰俳句大会入選作品集(応募句)』

平生町郷土史研究会『ふるさとの自由律俳人 久保白船』

中川真昭『田上菊舎いのちを歩く・やさしく見つめる』

現代山口県詩選編集委員会『第7回やまぐち県民文化祭 現代山口県詩選2003年版』

柳井市『ふるさとの碑』／河村正浩『句集つれづれ』／中都孝美『「岩国行波の神舞」考』

岡本苔水『句集船音』／小野たけし『句集芽木の風』／上野さち子『句集葛の花』

やまぐち県民文化祭実行委員会『第7回やまぐち県民文化祭やまぐち文芸の饗宴—ふるさとのアーティストたち—』／和木町史編纂委員会『和木町史』

柳井市立柳井図書館『柳井図書館叢書第十九集 中世の柳井について』

中村石秋『其桃七十周年記念出版其桃叢書第四十四輯合同句集「桃影」第九輯』

中原中也記念館『平成13年度中原中也記念館特別展書簡にみる交流の足跡』

伊藤正一『錦帯橋物語』／周南市教育委員会『ふるさとの偉人』

周防淑子『第五詩集 おまつり考』／三原博光『介護の国際化』

馬鳳如『山東方言の調査と研究』／森川信夫『山口県方言基本発音体系』

柳井山甫『萩の方言第2版』／小野豊子『随筆集さくら日和』

小泉凡『赤間神宮叢書15小泉八雲と「耳なし芳一」—書齋でイメージした平家伝承—』

森川信夫『鑑賞郷愁詩集十二箇月第一集(一月・二月・三月)』

嘉村礒多『嘉村礒多全集』第一巻、第二巻、第三巻／山本散人『句集漂鳥』

黒田泰功『星に向かいて』／安富静夫『水都の調べ 関門海峡源平哀歌』

防府市立防府図書館『図書館年報 15年度(2003)』／伊藤勲『防長尔香於留万葉歌』

一坂太郎『吉田松陰門下生の遺文』／河野通弘『歌集嵐のころ 戦中療養記』  
清永只夫『明治維新発祥の地 下関・維新物語』／阿部閑翁『長恨歌』  
稲田秀雄『山口鷺流狂言保存会五十年の歩み』／石川和朋『毛利元就 ぶらり見て歩き』  
(社)山口青年会議所『おはようございました のんたでございます』

**寄贈資料** —2003年11月14日～2004年10月15日(以上資料整理—大学院生・小池美晴)—  
菊舎筆俳句手拭「よしあしに渡り行世や無一物」,「白雲に錦かざらむきくのたび」,「山門を出れば日本ぞ茶つみ歌」／豊北町観光案内マップ2枚  
YAB『旅する女流文人 田上菊舎をあるく』(ビデオ)

## ≡ 彙報 ≡

### 公開講座 — 平成16年度 ふるさと山口の文学

今年度は、5～6月の土曜日の午後13:30～15:00, 下関市勝山公民館において、公開講座「ふるさと山口の文学」を開催しました(詳細はセンターだより3号参照)。桜園会下関支部、勝山公民館の皆様には色々お世話になりました。御礼申し上げます。

### 資料展示

..... 第8回山口県民文化祭「文芸フェスティバル」: 於・岩国  
平成16年9月9日(木)～12日(日)

岩国における「ふるさとの文学者13人展」に嘉村磯多・井上剣坊関係の資料を出品。

..... 鷺流狂言資料展示(山口鷺流狂言保存会結成50周年にちなむ)  
平成16年10月4日(月)～11月5日(金)

山口鷺流狂言保存会結成50周年を記念して、春日庄<sup>しゅんにちしゅうさく</sup>作自筆本をはじめとする当センター所蔵の山口鷺流狂言関係資料40点あまりを展示しました。

**編集後記** ▲センターだより第4号の発行となりました。

▲今回、清永只夫先生・和田健先生・多田みちよ先生にはご多忙の中、ご無理をお願いしてそれぞれ当センター収蔵資料に関する玉稿をお寄せいただきました。

先生方に感謝申し上げる次第です。

▲当センターの前所長の熊本守雄教授は今年度を以て定年退職となります。当センターの充実発展に向けての並々ならぬ御尽力に感謝申し上げます。

▲本誌についてのお気付き・ご意見等ございましたらお寄せ下さい。(T)

■編集発行: 山口県立大学附属郷土文学資料センター(〒753-8502 山口市桜島3-2-1)

TEL. (083) 928-0211 FAX. (083) 928-2251

■発行日: 2004(平成16)年11月5日